

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200106		
法人名	有限会社ケイ・エム・コーポレーション		
事業所名	ランの郷		
所在地	静岡県清水区承元寺町222番地		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 12 日	評価結果市町村受理日	令和3年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全ての入居者が心地よい場所と思ってもらえるように心がけています。環境の良い土地の為、それを取り巻く環境が入居者に安心感を与える事でしょう。誰もが最初は緊張しながらこの施設を訪れることと思います。でも、玄関に入った途端(ホットする)雰囲気と職員の明るさが迎えてくれます。温かな施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200106-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 7 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れている自然豊かな地域の古民家を改装した1ユニットであることから、家族的な雰囲気を大切にして、利用者の入居前の暮らしぶりの継続を心掛けている。コロナ禍の中で、外出や地域との交流は行えない状況であるが、事業所内での新型コロナクラスター発生時には、地域住民の理解と協力を得て、法人本部や保健所の指導のもと、事業所内での暮らしを継続することができた。収束後は地域住民の温かい声掛けがあり、地域に密着した施設運営を心掛けている。職員は、外出制限が続く中、利用者や家族の希望・意向を聴き取りながら、レクリエーションやパズル遊びなど、事業所内で穏やかに暮らしてもらうことに注力している。毎月、利用者個々に写真入りの「ランの郷便り」にて、日々の暮らしぶりを伝えたり、ガラス越し面会を実施して、家族との関係継続を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげるよう今、毎日改革中です。日々努力している。	事業所理念を玄関に掲示し、管理者やケアマネジャーは、連絡帳や月例ミーティングを活用して職員との情報共有を図っている。業務日誌の書き方を改善し、職員個々の課題の吸い上げに努め、理念の実践に向け、都度声掛けを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設でコロナのクラスターを出してしまい、地域の皆様に助けていただき、施設の中で利用者の介護ができた事。大丈夫だから心配しなくていいから、職員は身体に気をつけて仕事をしよう電話をいただいたりして、嬉しく仕事できた事です。	利用者・職員の新型コロナ感染時には、地域住民の理解と協力を得て、法人本部や保健所の指導のもと、事業所内で介護することができた。直接交流はできない状況だが、地域住民との連携を大切にして、日頃から挨拶を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設は、オープンにしている。見学する事もできます。質問があれば、相談にも応じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中なので、書面でお願いしています。	コロナ禍の中、運営推進会議は書面にて開催している。地域包括支援センター職員より感染症の対策の助言や、地域代表より災害時の協力について情報共有を図っている。事業所内での新型コロナクラスター発生時には、連携を図りながら対応することができた。	コロナ禍の中、書面開催が認められているが、関係機関や家族・自治会長などへの議事録の連絡は必須である。運営推進会議の適切な開催と、関係機関や関係者への議事録等の連絡実施を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主には、運営推進会議での交流になる。施設の取り組みや考えを伝えている。	運営推進会議が書面開催のため、市担当者や地域包括支援センターへ報告を心掛けている。事業所内での新型コロナ感染クラスター発生時には、保健所とも連携を図りながら対応することができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、3ヶ月に1回マニュアルを使って勉強会を行っています。委員会を作りました。	身体拘束適正化委員会は、コロナ禍の中、事業所職員より担当委員を決め、管理者・ケアマネジャーと3か月に1回開催している。勉強会を行い、身体拘束に関する情報を、職員と共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が理解をしており、言葉の虐待に関しても、職員全員で防止に努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に、成年後見者制度を使用した方がいました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様の家族と時間をとっていただき、十分な説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話で対応させて頂いています。 意見や要望があれば、理解されるまで対応させて頂いています。	コロナ禍の中、家族との面会を制限しているが、管理者は電話にて都度連絡するなど、家族からの意見の吸い上げに努めている。毎月、写真付きの便り「ランの郷便り」を発行し、利用者の日々の様子を伝えながら、家族との連携を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部からマネージャーが来て、職員の面談を行っています。	管理者は、都度職員からの意見の聴き取りに努め、職員全体で共有すべき情報は月例ミーティングで取り上げている。法人本部のマネージャーによる年1回の個人面談や評価シートにより、職員の課題や意見の吸い上げに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護の年数で初級、中級、上級、評価シートを作っています。 問題があると個々に話を聞いて問題解決につとめています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に話を聞いている。 職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して、見るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に特別養護老人施設があり、ケアマネ等の情報交換や訪問などを常に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後、職員は利用者様と挨拶をし、何回も声掛けをして、困った事、出来ない事をさがしてその利用者様にあった介護をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が何か聞きたい事、困った事が生じた場合、電話対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後、問題が上がった時、家族に聞いたり、職員会議を開いて問題解決につとめる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とは何でも話せる関係になれる様、職員一人一人、心掛けて勤めています。 ダメダメの言葉は無しに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどの家族は面会が少ない。 5月から1ヶ月に1回、利用者様の写真入り「ランの郷たより」をお送りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がある場合は、面会はオープンにしている。電話対応もOKです。	コロナ禍の影響で外出が難しい状況が続く中、ガラス越し面会や衣替え時の衣類交換を依頼するなど、家族が訪問できる機会を設けて、関係継続を支援している。2月に1回の訪問理美容も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が必ず利用者様についています。その時にゲーム、歌、話題の提供に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設を紹介し、分からない事があれば相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に、希望・意向は把握している。 入居時のアセスメントシート「ご入居相談受付簿」にて利用者、家族の情報が整理されており、これを基に日々の生活の中から利用者の行動や意向の変化の把握に努めている。	入居時のアセスメントシート「ご入居相談受付簿」を活用して、利用者・家族の情報や、希望・意向を整理している。入居後も家族との連絡を心掛け、都度確認しながら、利用者の行動や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	穏やかに暮らせるように、生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に合わせ、個々が必要とする必要性を常に話し合いながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回介護計画とモニタリングを職員会議で話し合っている。	月例ミーティングにてモニタリングを行い、ケアマネジャーは、管理者と職員との意見交換を図りながら、介護計画に反映している。業務日誌・個人ノートを活用し、利用者の日々の状態に合わせた対応を心掛け、常に話し合いながら取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ノートを記入し申し送りする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、個人対応を心掛け取り組んでいる。 ご家族とも話し合っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りの環境に恵まれている。 自然を感じながら生活している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回往診をお願いしている。 利用者様の具合が悪くなった時は必ずかかりつけ医に連絡をし、先生の指示をうけて動いている。先生の指示を受け、病院に受診に行ったり、先生が往診してくれます。	月1回、協力医による往診がある。利用者の身体状況は、週1回の訪問看護師による健康管理情報により、職員が共有している。提携歯科医は、3か月に1回定期的に訪問診療している。整形外科医等の他科受診へは、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週1回看護の支援を受けています。個々に利用者様が相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者には、個人の情報を提供し、病院での様子を伝えてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針は入居時に説明している。重度化した場合、終末期に入った場合、主治医と家族と話し合いをしていただき、施設は先生から指示を受けて介護にあたっている。	重度化や終末期に向けての事業所の対応は、入居時に利用者・家族に説明し、同意書を得ている。重度化した際には、再度主治医から説明し、家族の同意のもと、主治医と訪問看護師と連携しながら、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設で出来る事は限られている。 その時に慌てないためにも、日頃から早め早めの対応をし、記録している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期検査の時に、防災訓練を行っている。 防災訓練を行うときにテーマを決めて行っている。実施記録を書いている。	災害備蓄品は5日間分を目途に、本部対応にて備蓄管理されている。停電時の対応については、各部屋にランタンを用意し、食材保管方法などの対応を検討している。防災訓練として、消火器の使用等の火災対応訓練を実施するとともに、災害発生時における地域住民の協力を要請している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が優しく利用者様に接するように心がけている。利用者様の人格を尊重し言葉遣いに気をつけ、行動も自由にしている。	利用者の尊厳やプライバシーの確保について、職員の行動に課題が散見された場合、管理者は都度注意を行い、必要な場合は月例ミーティングで取り上げて、職員全員の情報共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様はなかなか自己決定が出来ない人がいるので、職員が常に利用者様のそばにいて思いを聞くように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして、行動を抑制していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回理美容をお願いしている。本人の気に入っている洋服を基本的には着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回、温かいものを提供しています。	食材は宅配業者を利用し、事業所の厨房で調理している。家族や地域住民から差し入れが多く、おやつ時間に、果物など季節毎の味を楽しんでいる。水分補給に、特に留意している。「ランの郷便り」とともに、毎月の献立を家族へ郵送している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥性肺炎にならないように、一人一人に配慮して食事を準備しています。必ず職員が見守りします。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。本人が出来ない時は職員が介助している。歯科医が3ヶ月に1回訪問、ケアしてくれている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し記入している。時間でトイレ誘導をしている。自立している人も職員が見守り確認をしている。	「排泄チェックシート」を利用しながら、先回りのトイレ誘導に努め、夜間おむつ利用者も、昼間は自立して排泄できることを目標に、支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談をして薬の処方と水分摂取や運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間入浴の予定をたてているが個々に沿った希望タイミングで入浴を支援している。	基本的に週3回、午前中を入浴時間としている。利用者の体調や希望に合わせて、毎日シャワー浴をしたり、車椅子利用者には足湯等、工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日に入浴する人の寝具類を洗う。布団乾燥機をつかっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きな事を聞く。施設で道具を揃えている。毎日遊んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出禁止です。	コロナ禍の中、外出が困難な状況が続いているため、事業所内での廊下を利用した散歩や窓を開けた外気浴など、工夫しながら対応している。通院時のドライブも貴重な時間ととらえ、職員が対応している。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設ではお預かりしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の電話は利用者様につないで会話を楽しんでいる。贈り物が届くと必ずお礼の電話をかけ会話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、職員が清掃している。消毒も毎日行っている。清掃した後も、トイレが汚れているか確認をして清掃、消毒している。	古民家を改装した事業所は、昔ながらの自宅にいる雰囲気大切にしている。職員がこまめに掃除・消毒を行い、清潔が保持されている。感染症予防対策として、毎朝、個々の居室の窓を開け、エアコン・扇風機を活用し、事業所内の換気を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに自席がある。自室で休んだり、リビングに座ったり自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室になっている。自分で生活できない人のために分かりやすく整理整頓をしている。	利用者の好みに合わせて、使い慣れた家具の配置・整理整頓を心掛け、居心地のよい部屋づくりの工夫に取り組んでいる。コロナ禍で訪問機会が制限される中、衣替え時の衣類を家族に持参してもらうことで、家族との関係継続も心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護用ベットを使用しています。シンプルでわかりやすく安全面でも転倒がないように動きやすいスペースを作っています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍の中、書面開催が認められているが、関係機関や家族、自治会長などへの議事録の連絡は必須なので、連絡実施を期待している	運営推進会議の適切な開催と、関係機関や関係者への議事録の連絡を実施する	今後継続してご家族様へ運営推進会議の議事録とアンケートを送り、ご意見を頂いて、施設の運営に役立てたいと思います	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。